

小・中学校の教員をつなぎ、学びを広げる ～KIC：高槻市教育研究会小学校外国語活動部～

同部顧問 高槻市立北清水小学校 中西 浩一

高槻市は大阪府の北部にあり、人口約36万人、幼稚園22園、認定子ども園1園、小学校41校、中学校18校の中核市です。

KICとは、

Kids' English and

International

Communication based on English

の頭文字を取った呼称名で、正式には高槻市教育研究会小学校外国語活動部のことです。今年度の会員は57名で、石上達矢部長のもと年間8回の部会の他、今年度から夜の自主勉強会「TALK」も立ち上がり、毎回積極的な活動が行われています。

1 設立の経緯と目的

平成15年度の「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」実施に伴い、本市においても中学校英語科教員を対象とした集中研修が始まり、英語教育の大きな転換期となりました。小学校についても各校1名を対象に集中研修が行われ、「英語活動」がすべての小学校で始まりました。

KICは、平成15年度に、当時市の英語活動の研究指定を受けていた小学校教員たちが中心となり、その産声をあげました。

まだ混とんとした状況の中、「21世紀を生きる子どもたちのために、どんな英語教育をすればいいのか」、「実際の授業はどうあるべきなのか」等、毎回熱い議論が交わされながら、手探りの実践が始まりました。合言葉は「子どもたちの未来のために」、「小学校教育としての英語教育を」その基本は、世代が代わり、若手中心となった今も変わりません。教育研究会としての運営も、他の教科等では「持ち回り」で行われる部会が多い中、KICでは当初から、そして今も「役員制」で主体的に運営されています。

2 KICの活動

平成27年度年間活動計画は次の通りです。

- 5/13 役員及び年間計画等の承認
- 6/10 公開研究授業（中学校英語部会共催）
- 8/18 学識者を招聘しての講演＆workshop
- 9/ 9 学習指導案検討
- 11/11 中学校英語部会公開研究授業（共催）
- 12/ 9 学習指導案検討
- 1/15 公開研究授業・研究協議
- 2/17 公開研究授業・研究協議

今年度は、KICの研究授業とは別に、中学校英語部と連携して、年間2回の研究授業を予定しています。また、経験年数の浅い教員が急増していることから、もう一度原点に戻って、『Hi, friends!』と高槻市のモデルプランをベースに「誰でもできる普通の実践を広げる」とともに、中学校の英語科教員に小学校の授業をもっと知ってもらい、中学校での実践につなげようと意気込んでいます。

3 実践の紹介

6月10日に行われた研究授業を紹介します。当日は、少しでも教員が参加しやすいように、会場を市内2校に分け、同じプランで行われました。（高槻市立西大冠小学校：石上達矢教諭、同清水小学校：和田博之教諭）題材は『Hi, friends! 2』Lesson 3 “I can swim.” です。

本単元では、I can～. I can't～.の表現を用いてShow & Tellで相手に自分のことを伝えることをタスクとしました。子どもたちは、小学校入学以来5年間一緒に過ごしていますので、お互いをよく知っています。しかし、そんな中でも知らなかったクラスの仲間

の意外なところを再発見できるように、工夫をしながら授業は進みました。子どもたちは「え〜!?」「そうやったんや!」と、お互いに知らなかった一面を知ることができ、とても意味のあるコミュニケーション活動になりました。子どもたちの、何とかして自分のことを伝えようとしている姿や、友だちの意外な一面を一生懸命聴いている様子がとても印象的でした。

外国語活動 ふりかえり。

④ Gender Class () No ()

Name: _____

Lesson 3 4 I can swim!
自分の「できること」「できないこと」を
カードを使って自己紹介しよう。

自分の「できること」「できないこと」を両方に決めることはできましたか?				
両隣で話せるよう頑張った。	得意顔で話せるようになった。	ジェスチャーを使うなど工夫して決まらなうなずくなど悩んだが頑張った。	ジェスチャーを使うなど工夫して決まらなうなずくなど悩んだが頑張った。	ジェスチャーを使うなど工夫して決まらなうなずくなど悩んだが頑張った。
自分の「できること」「できないこと」の言い方が変わりましたか?				
自信をもって話せる。	話せる。	みんなと一緒に話せるようになった。	話せるようになった。	話せるようになった。

その他記述。

でも自己評価が低くなりがちでしたので、子どもたちが「頑張ってできた」と実感できれば、という思いで試行されたものです。結果子どもたちは「次はこんなジェスチャーを付けてみよう」等工夫を凝らしながら積極的に取り組み、「伝わった」という実感を持つことができたようです。今後も効果的な自己評価にいかしたいと思います。

当日は、中学校の英語科教員も参加してくれました。授業後の研究協議では、小・中学校においてつるべき力や、6年生が「読み・書き」に興味を持っていること等から、文字の取り扱い方や指導法等について議論を深めました。

両会場とも小・中学校教員による協議を通して、小・中学校が連携しながら、英語でコ



ミュニケーションをしようとする態度や英語学習に対する意欲を育てていくことの重要性を再確認しました。

4 KICの存在意義

①小学校の現状と課題

現行の学習指導要領における小学校各教科等の授業時間数は、国語1461時間、算数1011時間、体育597時間、音楽358時間、道徳209時間、家庭115時間…外国語活動70時間で、全体に占める割合は、国語の26%に対して、外国語活動は1%に過ぎません。

また、本市には約1,200名の小学校教員がいますが、過去10年間毎年100名前後の初任者が採用されており、講師の数も1割を超えています。「教職経験年数10年未満の教員が10人以上いる小学校」の割合は、平成26年度高槻市80%、大阪府39%、全国11%となっています。

さらに、小学校は教科担当制ではないため、教員の市の教育研究会の所属についても毎年変わります。つまり、多くの教員にとって、毎年「初めての外国語活動」が続いているのが現実なのです。

②教員をつなぎ、学びを拡げる

このような現状の中、教育委員会や教育センターが行う研修だけでは、外国語活動の充実は難しいことは明らかです。日本の教育を支えてきた「授業研究」を推進する場の1つとして、今後各市町村における「教育研究会」が一層重要になると思われます。全国に「外国語活動部」が立ち上がり、国語や算数等と同様に、各都道府県で研究や実践が繰り返されていく日も近いのではないのでしょうか。

本市においては、KICがその役割を担うこととなります。小学校に限らず、中学校も含めて、教員同士をつなぎ、学びを拡げる場として、今後も一層の充実を図っていきたいと思います。

※参考：泉恵美子・萬谷隆一・アレン玉井光江・田縁真弓・長沼君主「小学校英語Can-Do評価尺度活用マニュアル」(2015)